

大人のレッスンシリーズ

アコギを弾こう!



Contents

1章 アコギを知ろう

1 色々な種類のアコースティック・ギター	4
2 アコースティック・ギターのパーツと構造	6
3 揃えておきたい便利な小物	8
4 アコースティック・ギターの弦	10
5 弦交換の方法	11
6 チューニング	15
7 日々のメンテナンス	19

2章 基礎編

1 楽器の構え方	20
2 右手の構え方	22
3 左手の構え方	26
4 楽譜の読み方	28

3章 コード編

1 オープン・コード	30
2 バレー・コード	35

4章 ストローク編

1 ダウン・ストローク、アップ・ストローク	38
2 オルタネイト・ストローク	40
3 空ピック	42
4 アクセント	44
5 コード・チェンジに挑戦	46



5章 アルペジオ編

1 アルペジオとは？	50
2 指弾きのイロハ	52
3 効率のよいコード・チェンジの方法	54
4 カポタストの使い方	57

6章 ギタースコア

旅の宿	61
なごり雪	66
神田川	70

楽典	74
コード一覧表	78

1 章

アコギを知ろう

アコースティック・ギターを弾く前に、種類や構造、揃えておきたい小物などを確認しましょう。

1 色々な種類のアコースティック・ギター

アコースティック・ギターといっても、様々な種類があります。ここでは代表的な3つの種類を見ていきます。

■ フォーク・ギター

アコースティック・ギターは略して「アコギ」と呼ばれ、一般的にはこのフォーク・ギターを指す場合が多いです。



■ ガット・ギター

クラシック・ギターとも呼ばれます。アコースティック・ギターとは、ネックの太さや張る弦など色々違いがあり、音色も異なります。



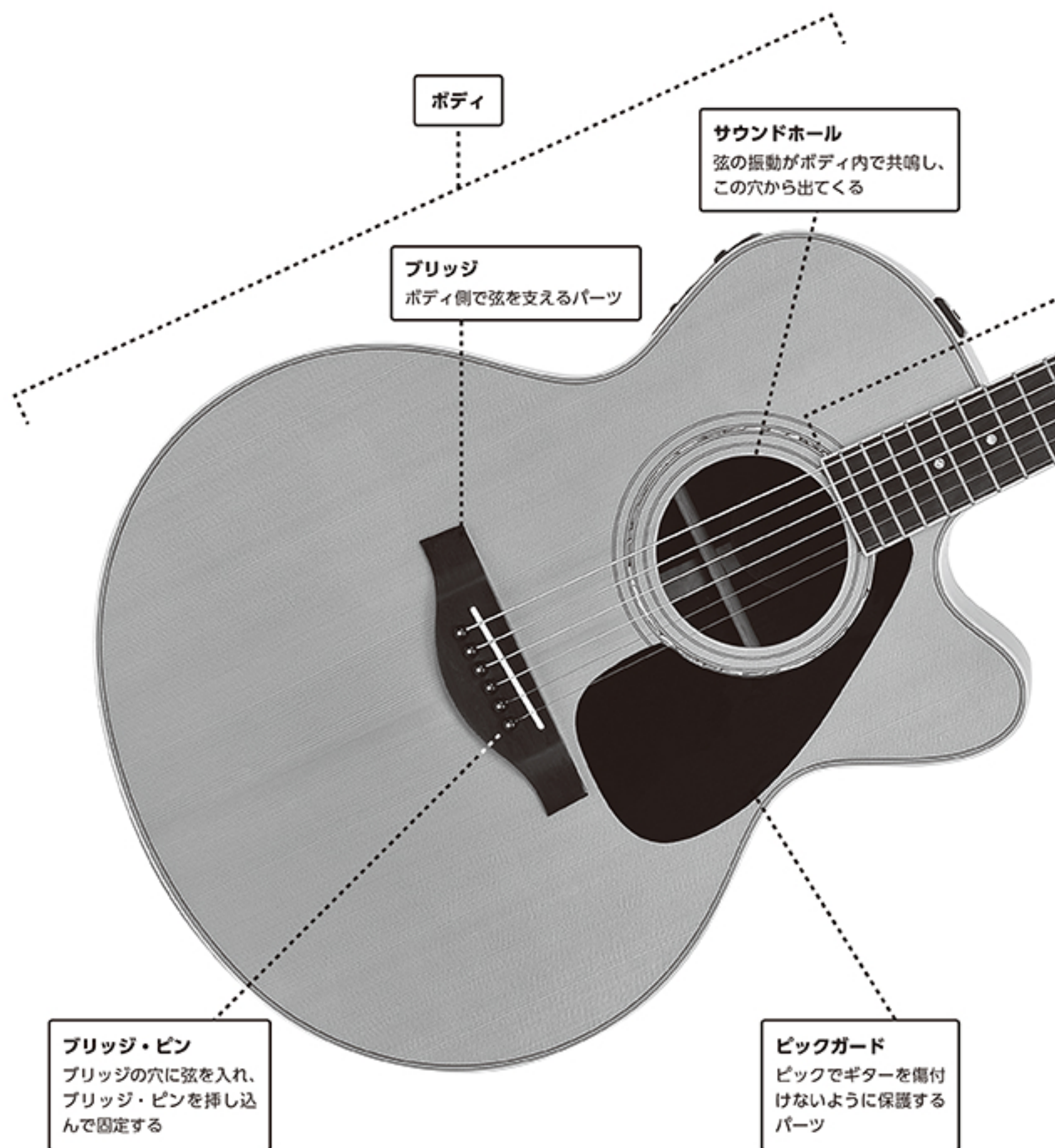
■ エレクトリック・アコースティック・ギター

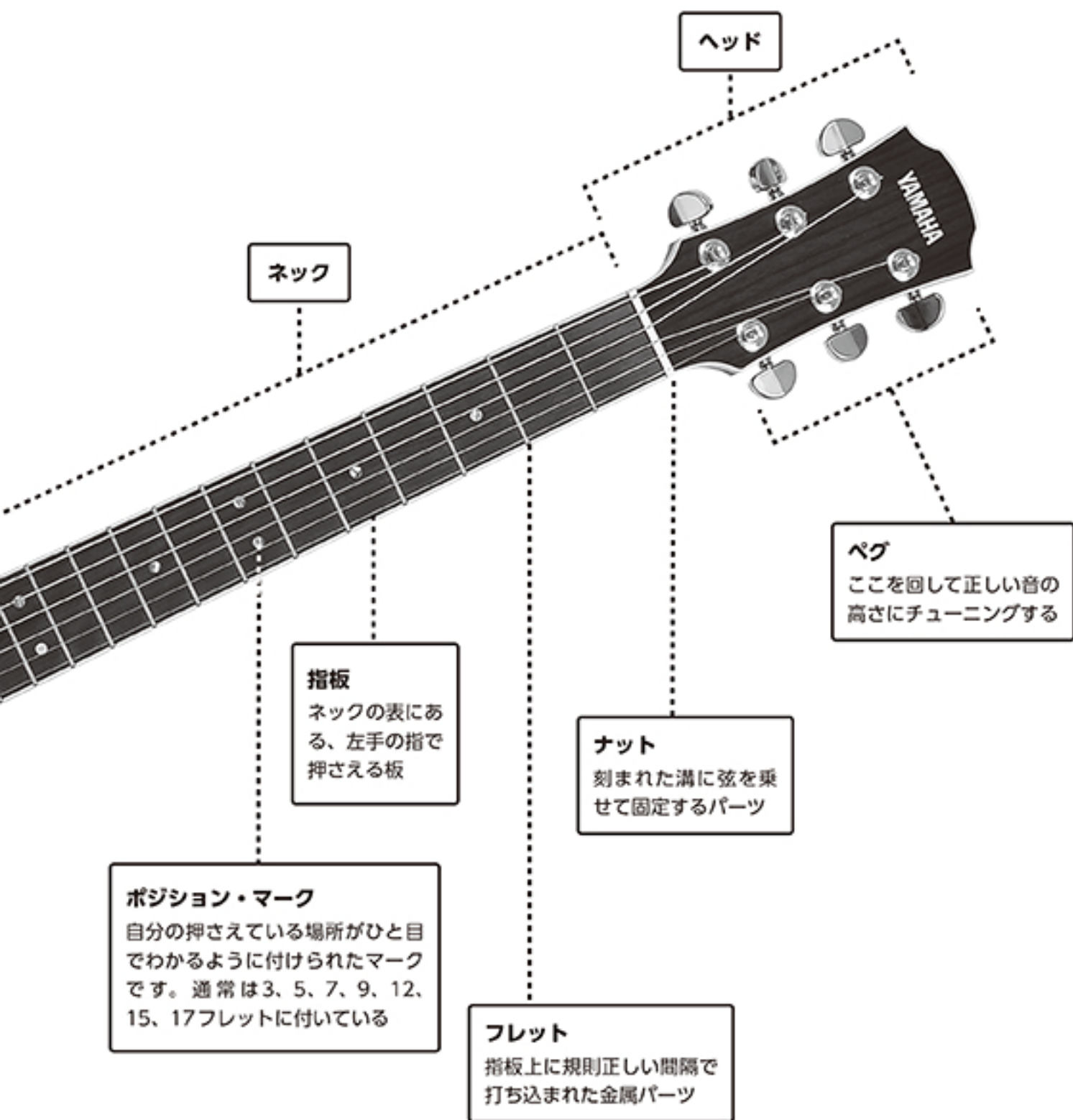
通称「エレアコ」と呼ばれます。エレキ・ギターのように、アンプと繋げることができるタイプです。



2 アコースティック・ギターのパーツと構造

アコースティック・ギターは、大きく分けてヘッド、ネック、ボディでできています。





POINT アコースティック・ギターとクラシック・ギターの違い

両方とも似ていますが、弦の材質や指板の幅、全体的なサイズなどが異なり、出る音も全く違います。初めて購入する際は、弾いてみたい音楽が弾き語りやポップスなどであれば、アコースティック・ギター、弾いてみたい音楽がクラシックの音楽であれば、クラシック・ギターを選ぶのがよいでしょう。

3 揃えておきたい便利な小物

アコースティック・ギターを弾く上で一緒に用意しておきたい小物を紹介します。

クリップ式チューナー



▲正確なチューニングをする際に活躍します。

メトロノーム



▲一定のリズムを刻みます。練習には欠かせません。

ピック



▲右手で持って弦をはじく道具です。様々な形状があります。

楽器ケース



▲持ち運びには欠かせません。頑丈なハード・ケース(上)と軽いソフト・ケース(下)があります。

■ ストラップ



▲楽器のストラップ・ピンに付けて肩にかけるためのものです。立ってギターを弾くときに必須です。

■ カポタスト



▲指板に装着して、ギターの音程を全体に高くします。

■ クロス



▲ギターに付いた汗や汚れを拭き取る布です。楽器の表面に傷が付かない、専用のものを使いましょう。

■ ペグ回し



▲ペグを素早く巻くことのできる道具です。これがあると弦交換の作業がはかどります。ブリッジ・ピン・オープナーの機能も合わせ持っているもののがおすすめです。

■ ニッパー



▲弦交換の際に余った弦を切るために使います。

■ 弦セット



▲弦が切れたときのために1セットは常備しておきましょう。

4 アコースティック・ギターの弦

アコースティック・ギターには専用の弦を張ります。エレキ・ギターやクラシック・ギターの弦とは違うので、わからなければ楽器店で確かめましょう。

様々な種類の弦がある

アコースティック・ギターの弦の中でも色々な種類があります。



太さによる違い

弦の太さによって音の力強さ、弾きやすさが変わります。最初のうちは指が痛くならないようにエクストラ・ライト～ライト・ゲージを選びましょう。

セットの名称	各弦の太さ (1, 2, 3, 4, 5, 6弦の順)	弾きやすさ	音量
エクストラ・ライト	010. 014. 023. 030. 039. 047.	★★★★★	★
コンパクト・ライト	011. 015. 022. 032. 042. 052.	★★★★★	★★
ライト	012. 016. 024. 032. 042. 053.	★★★★	★★★
ミディアム	013. 017. 026. 035. 045. 056.	★★★	★★★★
ヘビー	014. 018. 027. 039. 049. 059.	★★	★★★★★

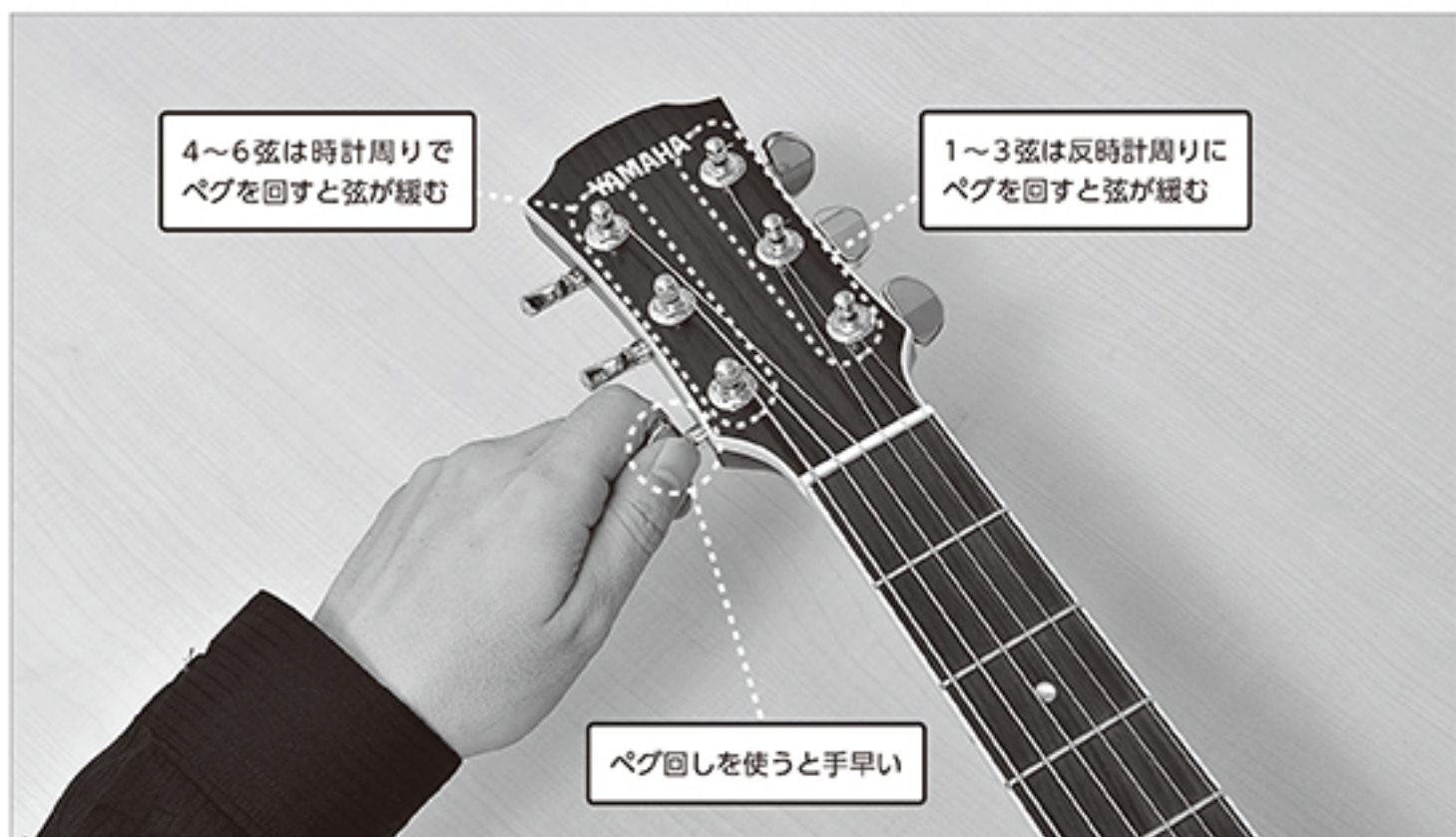
※セットによる各弦の太さはメーカーによって異なります。

5 弦交換の方法

アコギの弦は1ヶ月～半年を目安に定期的に張り替える必要があります。弦の交換についてみていきましょう。

●手順1

交換する弦を外します。まずは、1本ずつ緩めましょう。手でも構いませんが、ペグ回しがあると手早くできます。



コラム 弦を長持ちさせるコツ

しばらく弾いていると、巻弦の金属的な響きが曇ってきて、こもった張りのない音へと変化していきます。この状態を俗に「弦が死ぬ」といいます。弦が死ぬまでの期間は人によって、状況によって違いますが、とにかく弦に付いた汗をそのまま放置しないことが大切です。弦は錆びるからです。練習後にはクロスで弦に付いた汗をふき取ることは必要ですが、例えば数日弾かないことがわかっているなら弦潤滑剤をスプレーしておきます。このようなメンテナンスをすることで少しは弦の寿命が延びるでしょう。

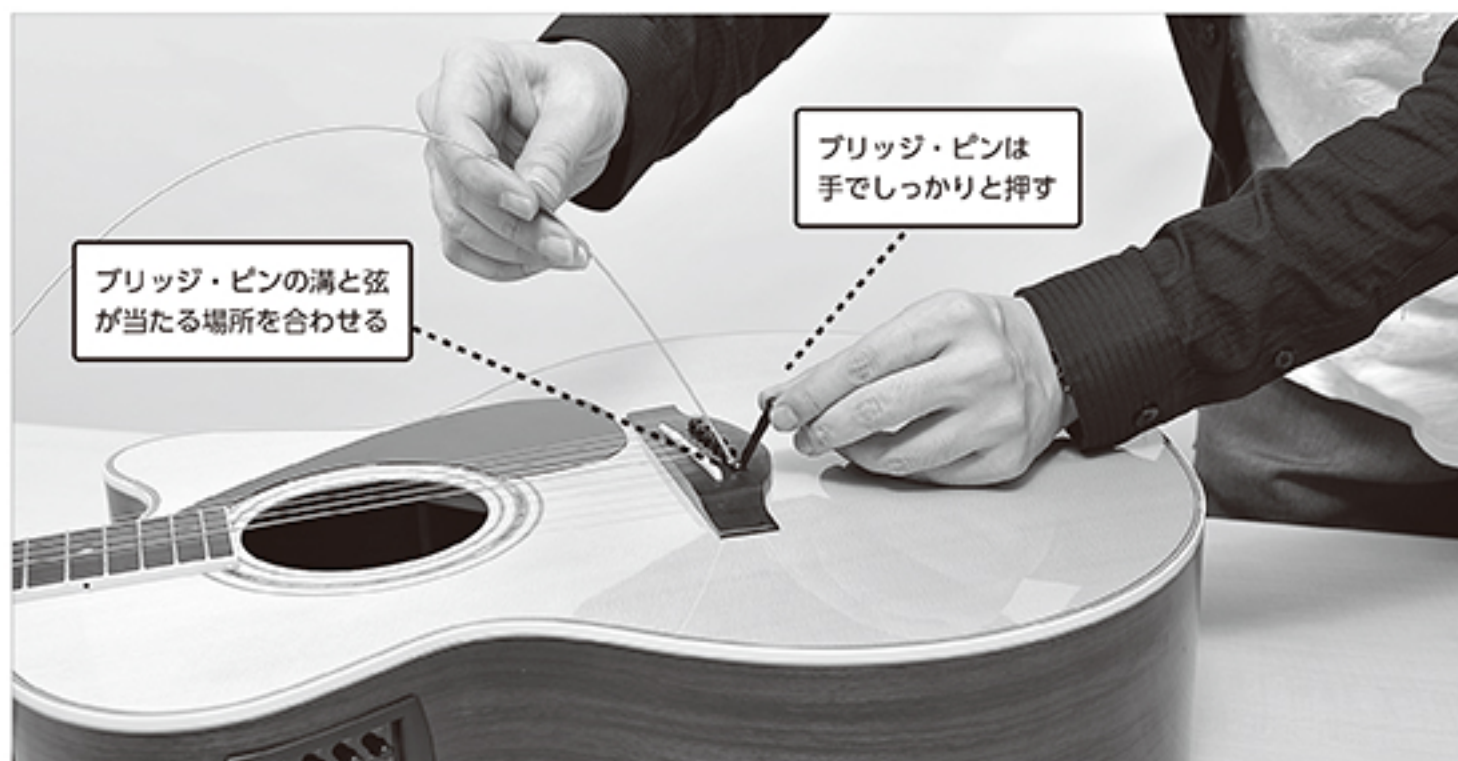
●手順2

緩めた弦のブリッジ・ピンをブリッジ・ピン・オープナー (ピンを抜く道具) を使って抜き取り、弦を外します。



●手順3

新しい弦を張ります。まずは、新しい弦のリング (ポール・エンド) が付いている側をブリッジの穴に差し込み、ブリッジ・ピンを元の状態にしっかり差し込みます。



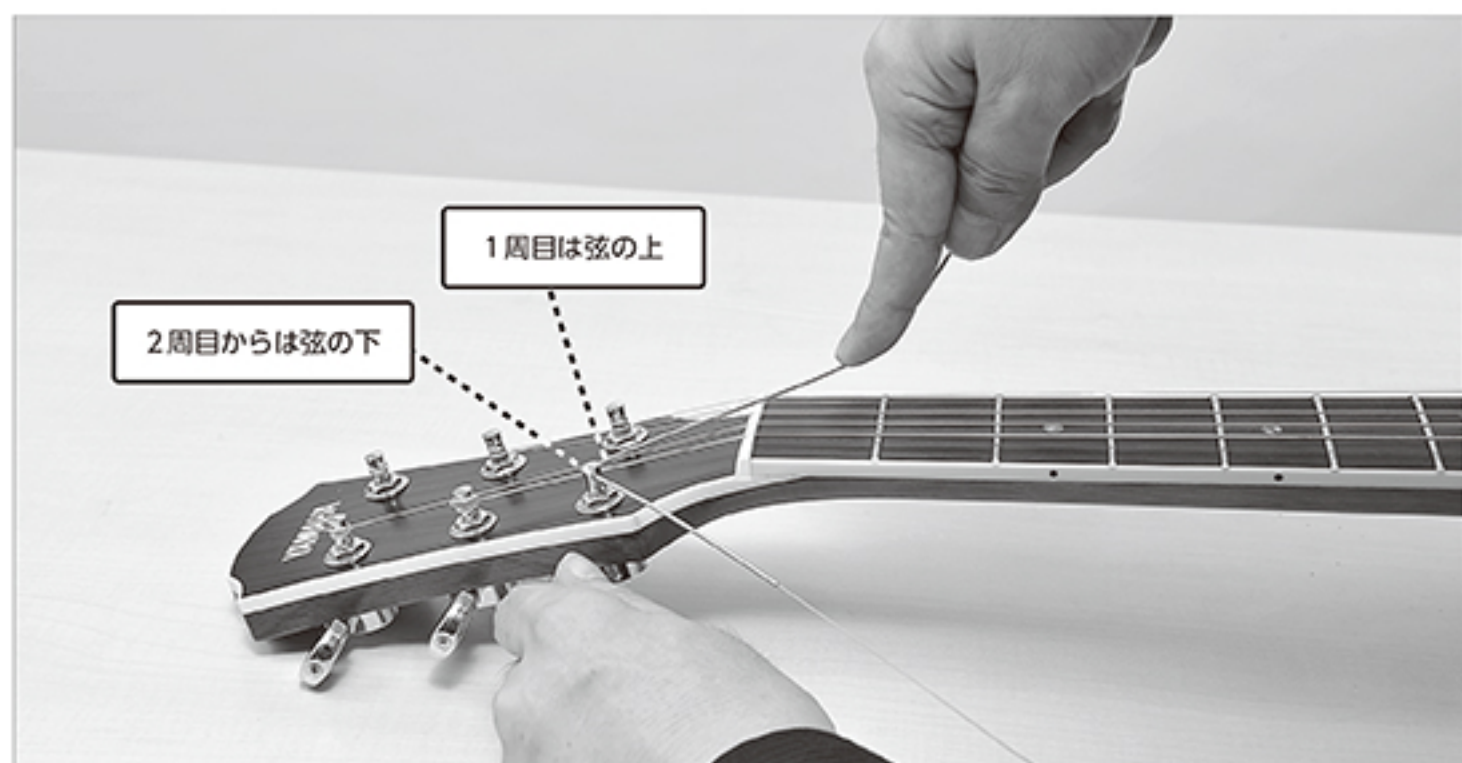
●手順4

ペグの穴より5～7cm程長めの位置を目印として軽く折り曲げます。



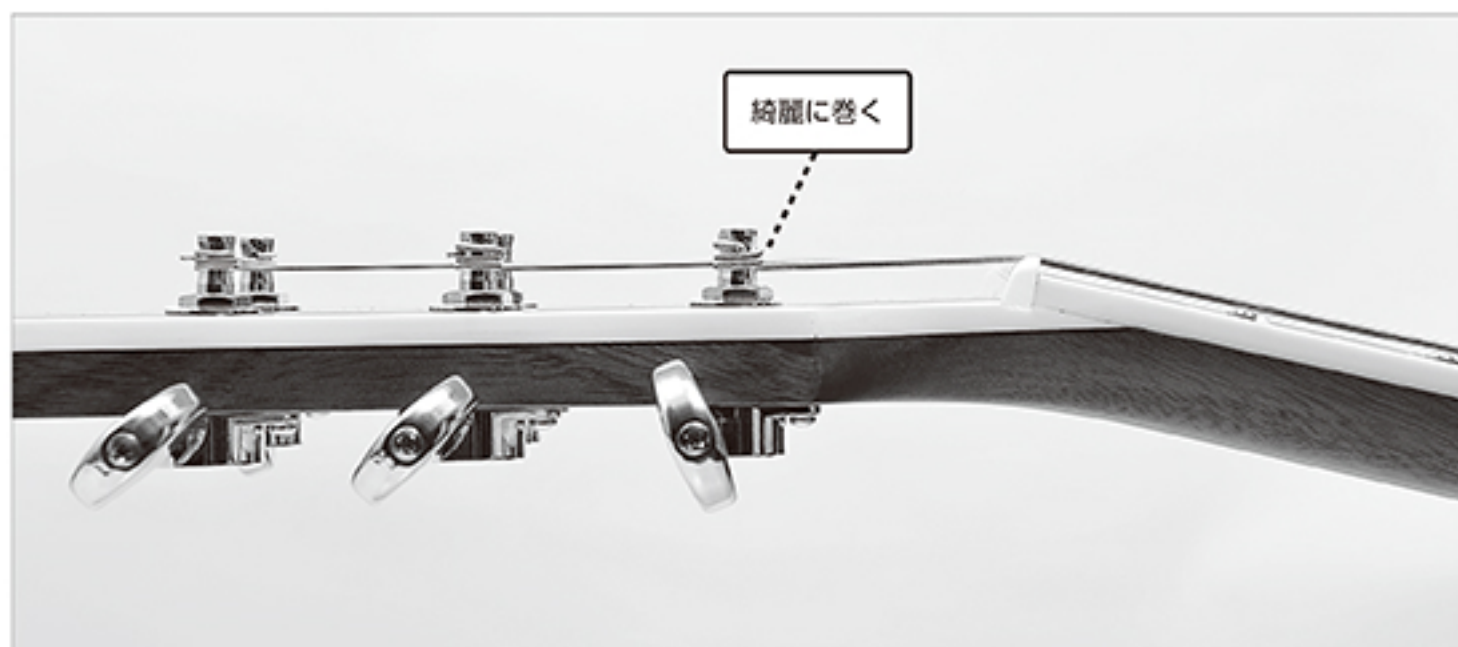
●手順5

折り曲げた位置までペグ穴に通し、軽く弦を引っ張りながらペグを巻いていきます。1周目は飛び出した弦の上に、2周目からは下に巻き付けましょう。



●手順6

このように綺麗に巻き付ければ完成です。綺麗に巻くとチューニングも安定します。



POINT 弦交換の時期

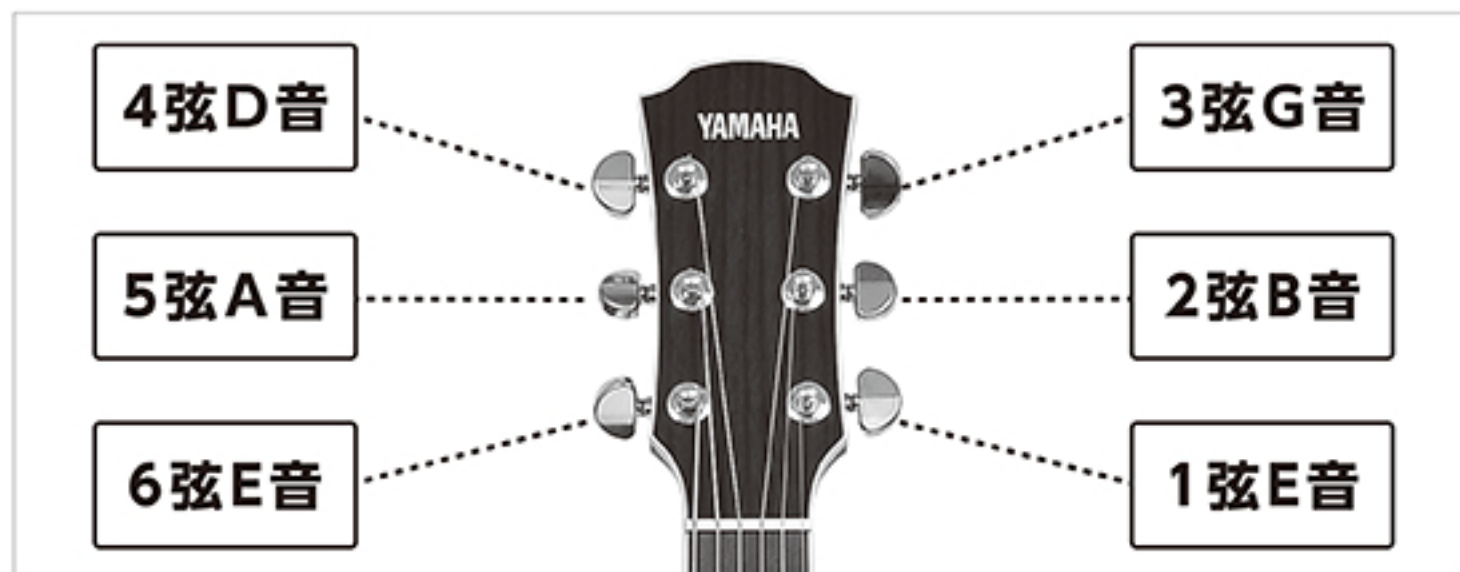
弦が錆びたり、音の張りがなくなってきたら弦交換の時期です。特に1、2弦は「弦の巻き」がないため、3～6弦に比べて錆びるのが早いです。ギターを弾く頻度によって異なりますが、1ヶ月～半年を目安に弦を張り替えましょう。弦が切れて1本だけを交換する場合を除き、基本的には全ての弦を同時に交換することが好ましいです。



6 チューニング

チューニングとは、ギターの各弦の音の高さを合わせて正しい音にすることで、とても大切なことです。ギターはチューニングが狂いやすい楽器ですので、弦交換をしたときだけでなく、日々ギターを弾く前にチューニングするようにしましょう。

各弦の音程



チューニング

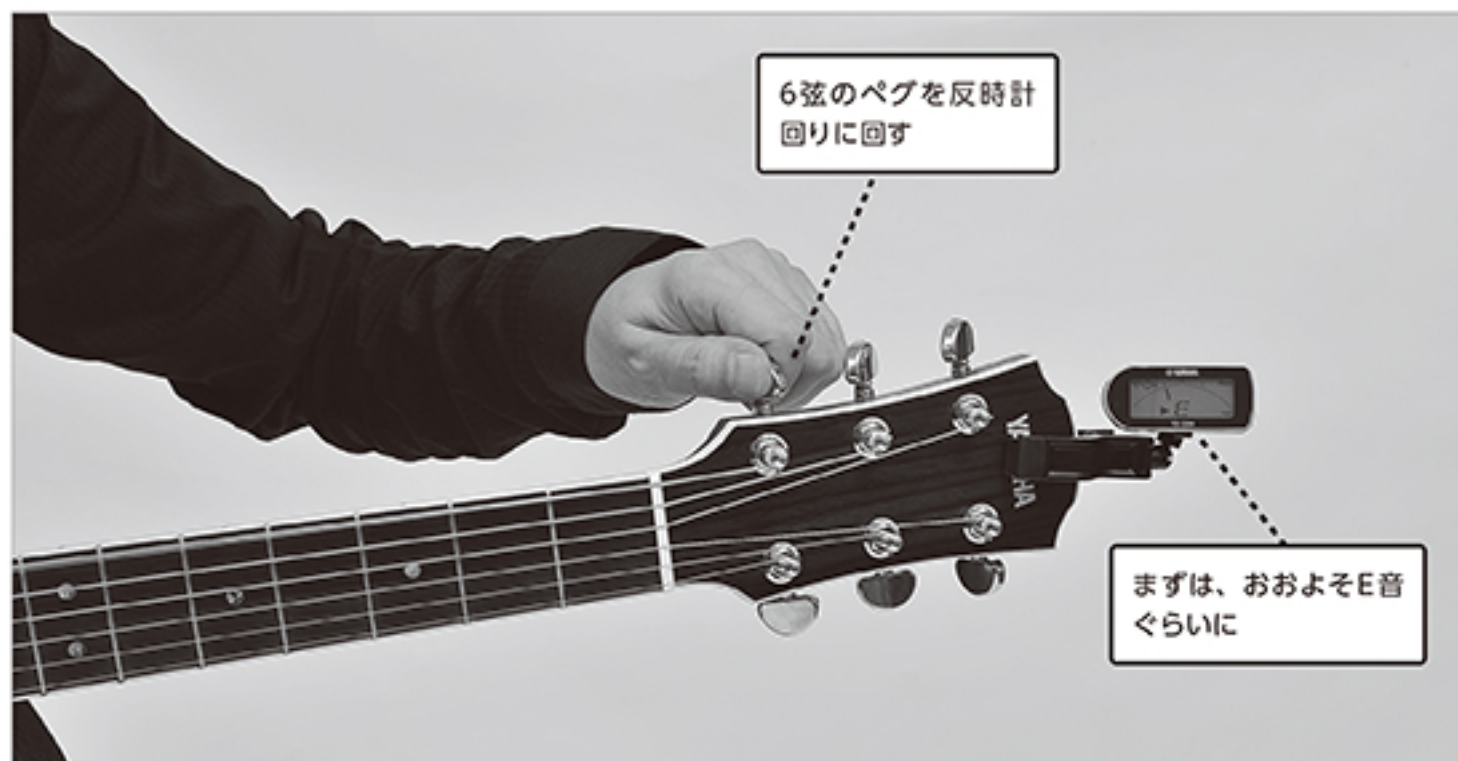
●手順1

クリップ式チューナーに電源を入れてヘッドに装着します。



●手順2

6弦の開放弦（左手でどこも押さえない）を鳴らしチューナーの表示がE音になるようペグを調節します。今はまだ大まかなチューニングです。



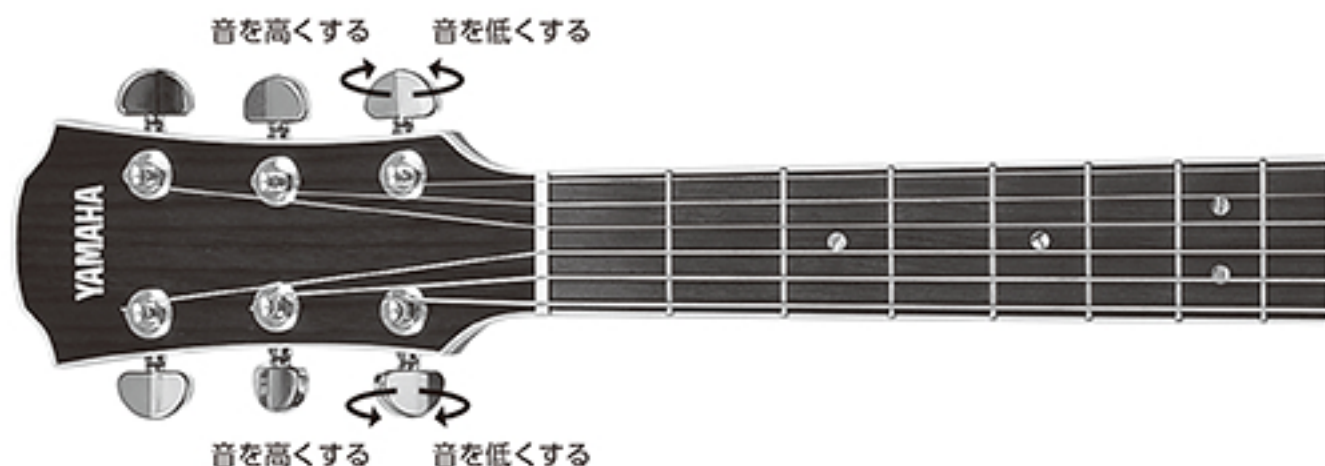
●手順3

次に正確なチューニングをしましょう。チューナーの針が真ん中にくるようにペグを慎重に回します。針が中央で止まったら6弦のチューニングは完成です。



●手順4

同じように1弦～5弦をチューニングします。ペグを回す方向は1～3弦側と4～6弦側では逆方向になるので注意しましょう。



コラム オープン・チューニング

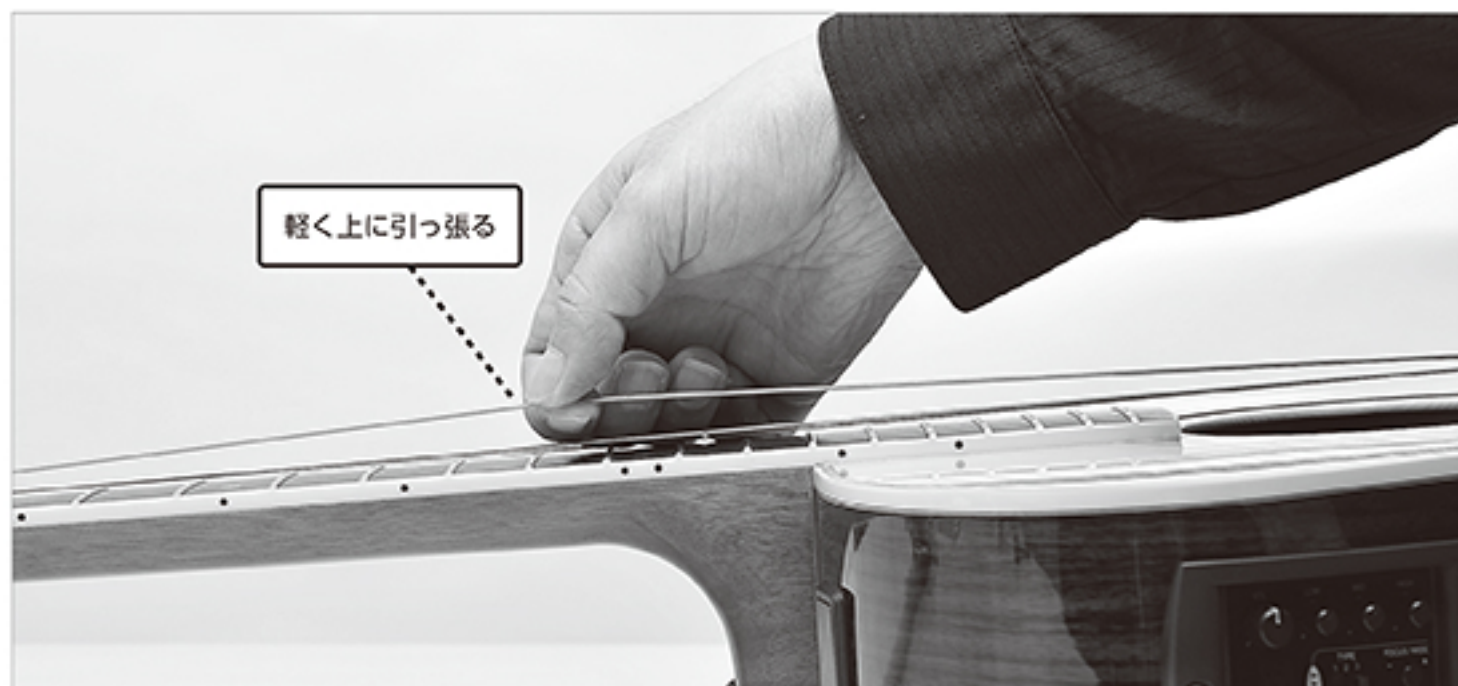
ギターのチューニングは1種類ではありません。本書で紹介しているチューニングはレギュラー・チューニングと呼ばれるもので、一般的にはこのチューニングで大丈夫ですが、例えばブルースを弾くときなどはチューニングを変えることがあります。そんなチューニングの数々を紹介しましょう。ただし、弾き方は随分と変わるので、本書では割愛します。

	6弦	5弦	4弦	3弦	2弦	1弦
オープンDチューニング	D	A	D	F#	A	D
ドロップDチューニング	D	A	D	G	B	E
オープンGチューニング	D	G	D	G	B	D
オープンAチューニング	E	A	E	A	C#	E
ダッドガッドチューニング	D	A	D	G	A	D

チューニングの注意点

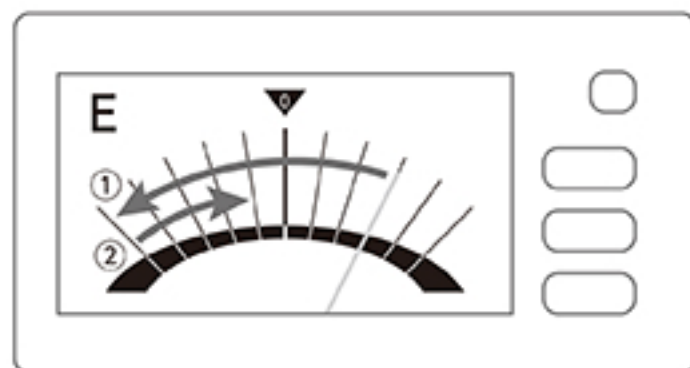
●弦は伸びる

新品の弦を張ってしばらくは弦が伸びてチューニングが狂ってしまいます。弦を伸ばしきってチューニングを安定させるために弦を軽く引っ張りましょう。



●チューニング中、針が上がりすぎたときは、いったん大きく下げる

針が上がりすぎた場合に、そこからちょうどの音に合わせるとチューニングした音がすぐ下がってしまい、安定しません。いったん大きく下げて、再度また調整しましょう。



①大きく下げて

②再度合わせる

●もう一度それぞれの弦のチューニングを確認する

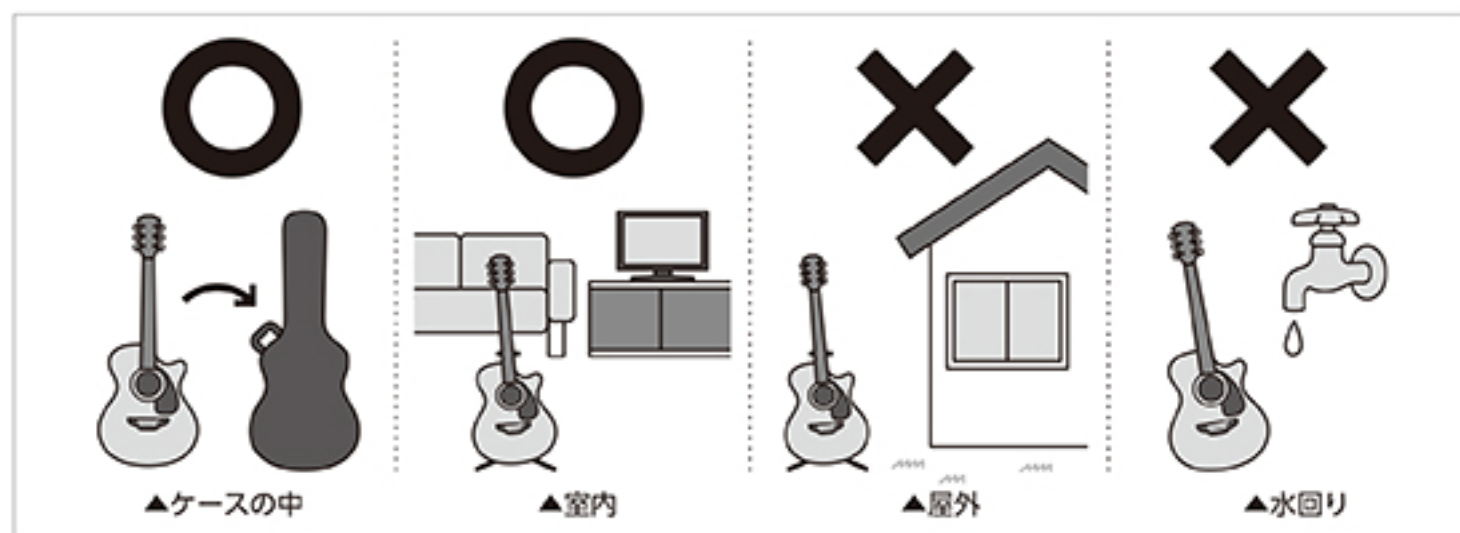
1～6弦までチューニングした後は、もう一度6弦からチューナーで確認しましょう。特に新品の弦は、安定するまで何度もチューニングを行います。

7 日々のメンテナンス

アコギを弾いた後に行うメンテナンスです。大切な楽器を長持ちさせるためにもぜひ実践しましょう。

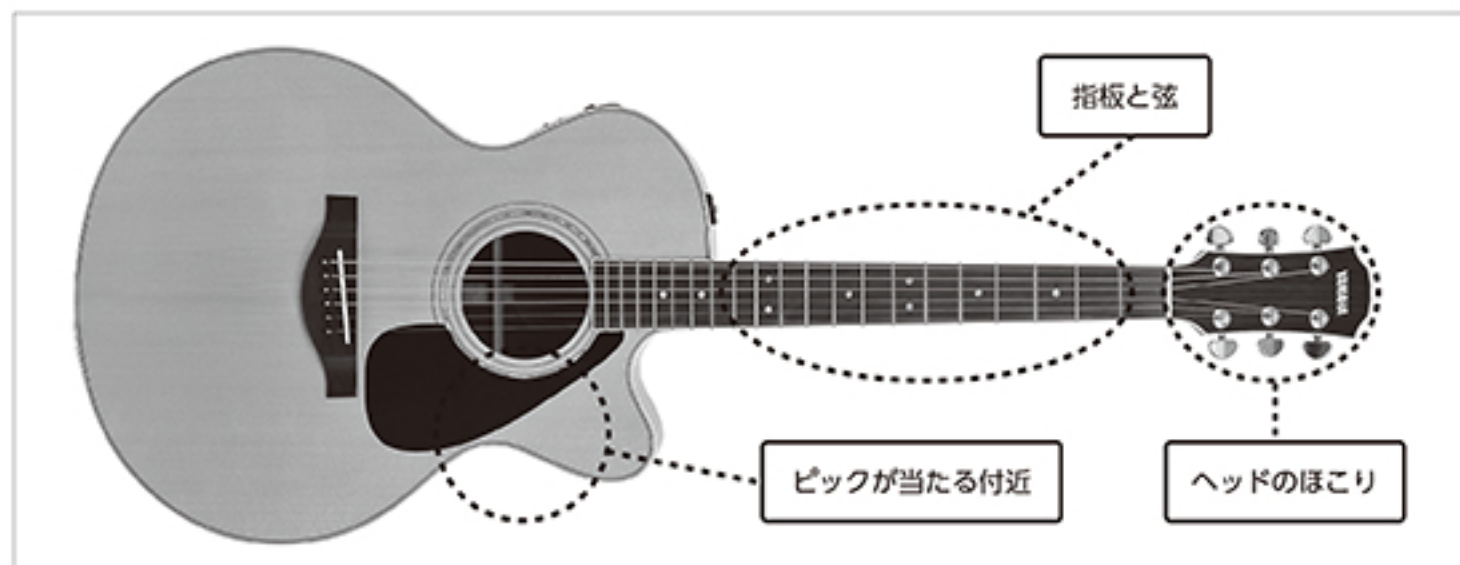
保管場所

温度、湿度が急激に変化する場所は保管に適しません。



汚れ、汗は拭きとる

ボディ、ネックの汚れや汗はクロスで拭き取りましょう。弦に付いた汗も軽く拭き取ると弦が長持ちします。



弦は緩めない

一度張った弦を緩める必要はありません。これはネックの状態を安定させるためにも重要なことです。